



# 横浜陶芸友の会だより

第 187 号

令和 5 年

11 月 6 日発行

## 「今年 はじめてのこと」

横浜陶芸友の会 会長 鍋島 弘義

今年の専修部「焼成会」は技能文化会館から専修部部長の井上さんの窯を使い行われました。「焼成会」の報告にもあるように何度も焼いていたいただき感謝いたします。

私も前回の作品展でのオパール釉に魅せられて初めて今回参加させていただきました。釉薬も自由に使用させていただき、焼成は任せ、期待しながら作品の受け取り、そしてみんなで鑑賞(感想)会。勉強になりました。井上さん、そして専修部の皆さんありがとうございました。

やはり、人が集まり陶芸の話で盛り上がるのは楽しいですね。また、来年も参加したくなりました。

10月28、29日、関内の教文センターの後に行われた「ミニ作品展」が10名の参加があり多種多様な陶芸作品が揃いました。残念ながら来場者が少なかったのですが、改めてこの会の素晴らしさを感じました。

穴窯、木の葉天目、練り込み、泥彩、人形、土笛、金継ぎ等の作品が全部見られるなんてめったにない事だと思います。

新作も必要ですが、過去のお気に入りを見ていただくのも一興かな?と、思いました。

同封された案内ハガキを見て気がつかれましたか? (作品写真の右下です)

なんと、ホームページのQRコードを高橋光男さんが作ってくれました。

携帯をガラ系からスマホに変えましたか? スマホのカメラで撮ってみてください。

もうパソコン無しで、いつでもホームページが見られます。過去の会報から退会された方や亡くなられた方の作品がまだ見られます。

一度、のぞいてみてください。世の中どんどん変化しています。

## 「役員会」報告

10月21日(土) 15時より、会長、副会長、各役員7名の出席で話し合いました。

《 議題 》

## 【 各部からの報告 】

### ① 総務部

○ 関東学院大学での「展示会」について  
○ 次々回(3月下旬か4月上旬)の役員会で「総会」に向けて各部の活動予定を出す

### 会計より

○ 次回(2月)の役員会で「作品展会計監査」をお願いする

○ 各部の会計報告と会計監査を次回の役員会で  
行う

○ 会報の11月号は量が多いのでスマートレターで送付する

○ 次々回(3月下旬か4月上旬)の役員会で決算・予算を検討し5月の「総会」に向けての資料を作る

### 広報より

○ 会報の発行(11月上旬 予定)

※ 「作品展案内」とハガキを同封する

○ 「会報」とは別に「総会資料」を四月上旬に送付する

### 事業部より

○ 「第44回作品展の案内」について

※ (詳細は事業部よりの欄を参照)

### 専修部より

○ 「焼成会」の報告

### 【 次回の「役員会」予定 】

2月3日(土) 15時から  
(場所) 杉田地区センター

### 「2023 年度秋の焼成会」終わる

専修部 逢阪博樹

今年度の「焼成会」は、井上部長のご厚意により部長宅の「ムサシ陶芸工房」にて

9月3日(日) 受付 作品搬入

9月10日(日) 釉薬掛け

10月8日(日) 作品引渡し

の日程で無事に終わることが出来ました。

近年開催規模が縮小気味でしたが今年度は参加人数も作品個数も増加しました。

その結果、本焼は3回に分けて、素焼きを入れれば延べ4回も部長には窯を焚いていただく結果となりました。



窯詰めと釉掛けした作品



今回もテーマを決めないで行いましたが、来春の「第44回作品展」の特設コーナーの課題が「どんぶり」であり、持ち込まれた作品もどんぶりや鉢物が多かったようです。

初日の作品持込日は、素焼きを終えた方もあり早速「釉薬掛け」を行う方も見られました。人気の釉薬は、昨年充実したもので(5月発行の第185号ご参照)オリジナル



完成した作品



参加人数	10名
作品数	53個
作品重量	18.41kg

ラスター釉、青織部に斑唐津の合せ掛けなど普段使えない25種類にも及ぶ釉薬を利用することが出来、焼き上がりに大きな期待が膨らみました。作品は手の込んだものも見られ今回の報告では詳しくお伝えしきれないので、来春の「作品展」での展示を楽しみにしてください。井上部長には会場を提供頂いたばかりか、素焼き・本焼き合せて4回も窯焚きをやって頂き改めてお礼申し上げます。今後に繋がる今回の「焼成会」でした。

### ○第44回「作品展」のお知らせ

事業部より

【会期】令和6年1月9日(火)～14日(日)

【会場】かなつくホール A室

(JR東神奈川駅 下車3分)

【特設コーナー】「どんぶり」

【申し込み締切り】令和6年1月3日(水)

【申し込み先】 ※同封の要項参照

※「出展作品一覧」も同封してください

※申し込み方法と「作品展」の詳細については、会報の11月号と一緒に会員の皆様に送付いたしました。

【受付時間】

令和6年1月9日(火) 11時～

※開場は 13時 から

【出展料】(一単位) 2千円 幅45cm

※昨年度より広くなりました。

【搬出】 1月14日(日) 16時より

【会場当番】

◎例年通り「ご協力」お願いいたします。

☆新型コロナウイルス感染防止のため

昨年度と同様に気を付けましょう。

#### 【懇親会】

※今年度は久方ぶりに **行う** 予定です。

1月11日(木) 詳細は当日

陶芸談義に花を咲かせましょう

関東学院大学「関キャンfes.」  
「作品展示」無事終了 10/28〜29



展示会の様子



この「展示会」には10名の会員が参加いたしました。

大学からは展示は一任されていたので「陶芸の多種多様さを見てもらおう。」と、出す作品を依頼したものもあります。

お陰様で、作品数は少ないながらも見ごたえのある展示になりました。

残念だったのは、PR不足もあり、ホールに来るお客様がほとんどで、展示場所も少し奥にあつたため来場者が少なかつたことです。

それでも熱心に説明を聞いてくれる方もあり、初めての試みとしては良かったのではないのでしょうか。

学長も見えられ、来場者の少なかつた事を残念がられていました。

初日終了後、「津和野」の二階で7名の方

が参加し懇親会が行われました。  
展示した作品を紹介いたします。



鈴木和子さんの焼き締め



焼き締めパネル



大日方さんの焼き締め



本橋昭彦さんの壺

吉川勝さんの焼き締め



本橋昭彦さんの木の葉天目



井上明さんの焼き締め



吉村希世子さんの練り込み



松崎紀一さんの人形



高橋光男さんの金継ぎ



鍋島弘義さんの土笛



鈴木貴久さんの泥彩

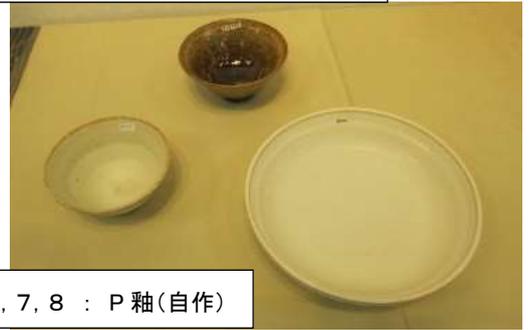
No.	作品名	焼成方法
1	飯茶碗:チタン白結晶	酸化焼成
2	中皿:チタン白結晶	酸化焼成後徐冷①
3	飯茶碗:チタン白結晶	酸化焼成後徐冷①
4	小鉢:チタン白結晶	酸化焼成後徐冷②
5	中鉢:チタン白結晶	酸化焼成後徐冷③
6	飯茶碗:P 釉(自作)	酸化焼成後徐冷①
7	中鉢:P 釉(自作)	酸化焼成後徐冷③
8	茶碗:P 釉(自作)	酸化焼成後徐冷①→再焼成
9	飯茶碗:白3釉(自作)	酸化焼成
10	中鉢:白3釉(自作)	酸化焼成後徐冷①
11	中鉢:白3釉(自作)	酸化焼成後徐冷②
12	中皿:OP 釉(自作)	酸化焼成
13	中鉢:OP 釉(自作)	酸化焼成
14	マグカップ:OP 釉(自作)	特設コーナー・酸化焼成

徐冷①:1150°C3時間 徐冷②:1050°C3時間 徐冷③:1000°C17時間



No. 1, 2, 3, 4, 5 : チタン白結晶釉

「43 回の作品」  
井上 明



No. 6, 7, 8 : P 釉(自作)



No. 9, 10, 11 : 白3釉(自作)

焼き物の焼成方法には、酸化焼成、還元焼成、冷却還元焼成等々色々あります。「冷却も焼成のうち」という言葉があるように焼成後の冷却方法も重要な工程だと言われています。

この冷却方法に着目していろいろテストしてみました。

徐冷①:ねらし後 1150°Cを 3 時間キープ

ex: 油滴天目や結晶釉

徐冷②:ねらし後 1050°Cを 3 時間キープ

ex: 油滴天目や結晶釉

徐冷③:ねらし後 1000°Cを 17 時間キープ

ex: 志野の焼成に近い

- チタン白結晶釉
- 白3釉(自作釉)
- P 釉(自作釉)

上記3釉で冷却①、②、③で焼成した結果です。

※それぞれの釉でハッキリ違いが出ました!!



No. 12, 13 OP 釉(自作)

⑥ P 釉(自作):酸化焼成後徐冷①    ⑧ P 釉(自作):酸化焼成後徐冷①→再焼成    ⑦酸化焼成後徐冷③  
同じ釉薬でも徐冷によりこれほど違いが出てくる。



「第 43 回の作品」

逢阪博樹



この偏壺は最後の穴窯で焼いた作品です。松がなくて他の薪を使ったので灰が掛かったところが白っぽくなった。置き場所は一番前の棚かもしれない。



招き猫の白はマット系の釉薬をかけてあります。耳などの赤は素焼きの部分に絵の具を塗ってあり釉薬はかかっていません。手足は作って貼り合わせてあります。



正月飾り：白土 色々  
偏壺：信楽 穴窯焼成 自然釉  
陶板・ガラス絵(蘭)：白土 色ガラス  
マグカップ(2個)：赤土 透明釉



・ガラス絵の赤色はスタンドグラス用のものなので色がよく出ました。  
作る時は夏場だと3時間くらい乾かし1時間位で一気に彫らないと縁が欠けてくる。  
一度全面に透明釉をかけガラスを入れる部分だけ釉薬を剥す。その際、油絵用の硬い筆を使っています。

・門松は三本の竹を底まで通し、中段に松葉を固定するための穴をあけた板を入れてある。松葉が折れやすく数が減ってしまいました。



「43回の作品」

鍋島弘義



この耳付き花器は穴窯風に焼いてみたかったので素焼きをしないで松灰を吹きつけて焼いてみました。

前回の作品展で「器に笛があっても面白いかも。」と言われて作ってみました。

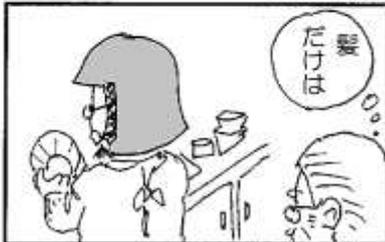


耳付き花器：益子赤土 松灰 電気窯 魚の土笛  
ねじり花器：益子赤土 松灰 電気窯 箸置き(5点)  
花器(3点)：伊羅保釉 飴釉 黄瀬戸釉  
土笛付マグカップ(3点)：伊賀土

# 陶陶さん

第 109 号

あかほし



これは、上絵付の作品で、九谷の絵の具を使って描き 800℃ 焼きました。



作品名「絵付け」  
 中皿：磁器土 上絵付  
 中皿：磁器土 下絵付  
 小皿(3点)：半磁器土 下絵付  
 小皿：磁器土 下絵付  
 初めての絵付に挑戦してみました

「第43回の作品」 大日方 毅



・焼き締め作品が多かった大日方さんなので、初の「絵付け」について伺いました。

○下絵を描く前に画用紙や素焼きした物で練習しました。筆の勢いと呉須の濃淡が一番重要で、後は図のバランスです。

ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより  
 第 187 号  
 (令和 5 年 11 月 6 日発行)  
 (発行人) 横浜陶芸友の会  
 会長 鍋島 弘義

【編集後記】

・今回は「関キャン Fes」の記事があり、一ページを使ってしまったため「第43回作品展」の紹介で3名が残ってしまいました。

・今回の会報に掲載いたします。

・今、この会の連絡網をラインで作ろうと、高橋光男さんが頑張っています。

・すでに役員用の9名が連絡しあえるようになりました。また、それとは別に会員用のグループも作成中です。

・これができると、年に3回の会報では伝わらない情報が瞬時にやり取りできます。

・是非、一月の「作品展」に顔を出した時に高橋さんに声をかけライングループに登録してください。

・QRコードもできましたので、こちらも是非スマホのカメラを向けてみてください。

鍋島弘義